

大石シゲ

ド・ロ神父の重要な協力者

大石シゲ

大石シゲと救助院の女性達

1879 年に出津教会での任務を任されたド・ロ神父は外海の人々のための社会福祉活動を行うのに、協力者を求めました。

彼の初めの協力者のうちの一人、大石シゲ(1850-1921)は、父の家で他の女性たちを招きを、織物や染色を学び教えました。彼女は、横浜のサンモール修道会に二年間派遣され宗教指導について勉強しました。彼女は、出津救助院が完成した1883年に外海に戻りました。彼女は、救助院の運営を任された人の一人となり、聖ヨゼフ会の創始者の一人として、のちに院長を務めました。彼女はド・ロ神父の指導に従って若い女性たちに仕事を与え教育を行い、自立した女性の教師として生涯を捧げました。